

水曜通信 16

2018年
10月

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

第16回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2018年10月17日（水） 18:30-19:00



説教：原田 浩司（本学准教授）
奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：F.メンデルスゾーン「オルガンソナタ
第4番」より第3楽章 アレグレット

讃美歌：546番 「せいなるかな」

聖 書：ルカによる福音書 15章1-7節

讃美歌：461番 「しゅわれをあいす」

説 教：「迷い出た一匹の羊よ」

祈 禱

頌 栄：541番「ちちみこみたまの」

後 奏：F.メンデルスゾーン「オルガンソナタ
第5番」より第1楽章 アンダンテ

後奏の後、30分間、東北学院大学学生サークル
室内合奏団「2 Candles」の演奏による讃美
を行います。詳細は次ページ。

次回第17回水曜礼拝は**11月21日**です。

第16回水曜礼拝の後の演奏曲目

演奏：東北学院大学学生サークル室内合奏団「2 Candles」

リコーダー：曾根 レイ（総合人文学科1年）通奏低音（オルガン）：門脇 壮（総合人文学科3年）

1. Georg Philipp Telemann, Cantabile from Recorder Sonata in C major TWV41:C2
2. Henry Purcell, Hole in the Wall (Hornpipe)
3. Jean Baptiste Loeillet de Gant, Largo from Sonata in G major op.1-3
4. Johann Sebastian Bach, Andante from Flute Sonata in B minor BWV1034
5. George Frederick Handel, Flute Sonata in F major op1-11 HWV369

Candlesは東北で唯一の学生のバロックアンサンブルデュオです。3人で合奏なら「3 Candles」になります。普段は敷居が高いと思われがちなバロック音楽ですが、実は私たちととても近い距離にある音楽だということをこの場でお伝えしたいと思います。

（総合人文学科3年 門脇壮）

第15回水曜礼拝報告（説教：佐々木哲夫、奏楽：小野 なおみ）

2018年9月19日(水) 18：30-19：00

讃美歌：286番「かみはわがちから」

聖書：マタイによる福音書 7章24-29節

讃美歌：304番「まことなるかみを」

説教：「権威ある者」

頌栄：541番「ちちみこみたまの」



【説教要旨】

砂ですか岩ですかと問われるならば、躊躇なく後者を選ぶことでしょうか。イエスの言葉を聞くだけで行わない者で行う者の人生を譬えての話ですが、それとて、ことさら教えられなくとも容易に認知できる話です。しかし、群衆は、律法学者のようではないとイエスの教えに非常に驚いたというのです。なぜでしょうか。

たとえば、ノーベル賞を受けた山中先生の講演会に出席してみると、都合悪く講師の代わりにお弟子さんが先生の講演原稿を一字一句正確に代読するとします。聴衆は、言葉が帰属する権威者の語りではないのがっかりすかもしれません。他方、聖書の群衆は、人生の土台を据えるべき岩がイエス自身であることを認知して驚いたのでした。

（佐々木哲夫）

前奏：F.クーペラン《修道院のためのミサ曲》サンクトゥスより「テノールをティエルスで」

後奏：同上サンクトゥスより「プラン・ジュ (Plein jeu)」

今年生誕350年のフランソワ・クーペランは、フランス古典期を代表するオルガニスト・作曲家です。前奏、後奏共にクーペランが全作品の中で初めて出版したオルガン曲集からの作品です。修道院で行われるミサにおいて、感謝の賛歌-サンクトゥスを歌う場面で聖歌隊とオルガンが交互に演奏されることを想定して作られました。（小野なおみ）

礼拝とその後の19時00分から20分までのグリークラブOB会の合唱による讃美に28名（※グリークラブOB会合唱団21人を除いた数です）の市民が参加されました。

礼拝後のグリークラブOB会合唱による讃美



指揮：佐藤雅英（経済学部経済学科1973年卒）

1. Amazing Grace
2. メドレー曲 The Wayfaring Strangerより、
Massa Jesus, Oh Lord, Wayfaring
Stranger
(いずれもセアール編曲による)
「本学グリークラブと師V.C.Searle」

セアール先生（1929～2012）はオクラホマ出身、1948年来日。1954年東北学院大学の音楽教師、グリークラブの指揮者となられる。約4年間の在職中と、その後の指導でグリークラブを全国一流の男性合唱団に育てた方です。東北学院大学グリークラブとOB合唱団に対する愛は「半端ない」ものがあります。グリークラブの為に編曲した曲は数十曲。その範囲も広く、宗教曲・スピリチュアル・讃美歌・歌曲・日本歌曲・童謡・日本民謡そして校歌までに至ります。これらの曲を歌いこなすためには、かなりのレベルを要求されます。

仙台を離れてからも、たびたび合宿や演奏旅行に付き合い、ご高齢になられてからも死の間際まで東京のOB合唱団を指導されました。（グリークラブOB会合唱団・渡辺真人）

ランカスター神学校調査報告会実施報告

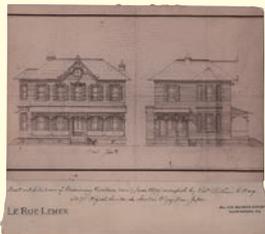


ランカスター神学校調査報告会を9月26日15時から30名の参加を得て開催しました。報告内容は昨年12月以来のランカスター神学校との交流を説明した後、8月2日から9日まで実施したランカスター神学校での調査にお

いて新発見した資料を具体的に紹介することができました。また、調査報告の後には、ランカスター神学校から教員交流の提言があったことの紹介、さらには出村彰名誉教授から「東北学院百年史」編纂時以来のランカスター神学校との交流が語られ、有意義な時間を過ごすことができました。最後に、松本宣郎学長と佐々木哲夫院長からも今後の交流への期待が寄せられ閉会としました。

— ランカスター神学校での発見（1）—

「ホーイの住宅」



最初にご紹介する資料は、「Home of W.E.Hoy」と説明書きがある写真です。ホーイは、健康上の問題から、1886年1月の仙台着任早々から何度か転居しています。初めに住んだのは、大橋のたもとの上仲ノ町63番地の二階建ての日本家屋でしたが、11月には南町通16番地に転居し、さらに1年後には片平丁に移っています。この写真がどの時点のものかはわかりませんが、写っている人物はホーイ自身と思われます。

ホーイは、自分の健康が快復しないのは日本家屋に住んでいるせいであると考え、婦人宣教師たちと彼自身のために西欧式住居の必要性を外国伝道局に訴えています。伝道局は財政上の困難を抱えながらも、1889年1月に、宮城女学校の校舎、寄宿舎と同時に、同じ東三番丁の敷地に2軒の宣教師館を建築します。下の写真はその中のホーイの宣教師館の立面図です。（日野哲）

研究ブランディング事業 シンポジウム「苦悩と救済」

講師：Petra von Gemünden
（アウクスブルク大学教授）
青野太潮（西南学院大学名誉教授）
吉田新（本学准教授）
日時：10月13日（土）13：00-16：00
会場：土樋キャンパス ホーイ記念館ホール



研究ブランディング事業公開講演会「聖トマス〜イエズス会〜ヒンドゥー原理主義〜南インドにおけるキリスト教ミッションの歩みと現在」

講師：山下博司（東北大学教授）
日時：11月10日（土）
会場：土樋キャンパス ホーイ記念館ホール



文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：
学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信 第16号

2018年10月12日発行
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL：022-264-6547
E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/